



継続して実施してきたこと
 稚内海岸清掃 30年以上取り組んできた清掃活動がR3年度に表彰



継続して実施してきたこと
 3年 北海道学(学校設定科目)授業による：高校生議会



継続して実施してきたこと
 豊富町と
 北海道学による
 地域包括連携協定



3年間の主な取組内容

・12月の探求成果発表会の具体

- 1 学年：各班(3班)に分かれてグループ課題探求の発表
- 2 学年：インターンシップによる実践探求発表
- 3 学年：対話型論証モデルを用いた個人探求の発表

日直
青
木

どの年度・学年も、地域と連携した内容の探求活動であり、1年次の基礎探求活動や2年次のインターンシップ、3年次の発展探求や個人探求活動も、それぞれ地域の活性化や、地域の良さを知る上で非常に有効な活動体験である。

日直
青
木

地域コーディネーターの役割や配置による成果について

- ①開始当初は、地域の方々との架け橋となっていたが、まさに活動の活性化を図るための貴重な人材として、関わっていただいた。
- ②徐々にながりが構築していく過程において、困った時のサポート役として活躍いただいた。

日直
青
木

CLASS プロジェクトの成果・課題について

地域資源を知り、その豊かさを認識して、それをどう地域のために活かすか、そのために地域の方々と、どうやってつながり、発展・貢献していくべきかを学ぶための非常に有益な活動となり、生徒自身の学びの豊さ・探究心、関心が深まった活動となったと考えている。

課題としては、いくつか記載するが、今後の探求授業発展のために、さらにブラッシュアップしていきたい。

日直
青
木



課題

- ①地域資源について毎年同じ探求課題、成果、結果になる傾向にある。
～同じものでも生徒が毎年入れ替わるので良い場合もある～
- ②地域との関係性を豊かにするためにコーディネーターの存在は大きい。
～自走できる関係構築と同時に引継ぎの充実を図る～
- ③その人しかできないことではなく、誰が担当になってもできるものを実施する
～マンパワー的な実施は避ける。各学年のプログラム化～
※～やること目的となっはいけない～
- ④上級学校との更なる連携構築を目指す。
～専門性の向上、付加価値の習得～
- ⑤教科横断的な取組について、さらに研修に努めたい。
～しやすい教科、難しい教科の見極め～



今後について

今年度で探求における「CLASSプロジェクト」は終了となるが、この3年間で培った経験とつながりは継続していく。また、今後探求活動の発信を地元のみならず、令和6年度から本格的に道外の高校へと発進し、新たな交流、気づき、認識、理解、学びを求めたいと計画中である。

教員の働き方改革も考慮し、業務が増える一方ではなく、精査し無くすものは無くし、新しいものは取り入れながら、生徒の成長をサポートすべくこれから取り組んでいく。

資料 豊 8

令和 5 年度 北海道CLASSプロジェクト実施成果報告書（3 年次）

学校名	北海道豊富高等学校
作成日	令和 5 年 1 2 月 2 0 日

1 今年度の検証について

①	検証の項目	Collaboration
	検証の方法	地域の資源について探究活動を実施
	検証結果	海岸清掃や牛乳パッケージについて、温泉観光、スポーツや音楽等の文化について探究活動し、地域資源を維持することの重要性を理解した。

②	検証の項目	Literacy
	検証の方法	探究活動と連動した教科横断的な学習の充実
	検証結果	町議会に出向き、傍聴した後、高校生議会として取組、実際に町議会議員から事前に議会質問の指導を受け、実際に議長として運営し、質問しながら地域発展の視点で探究活動した。 (社会・北海道学「学校設定科目」)

③	検証の項目	Adult
	検証の方法	地域探究活動への地域人材の参画
	検証結果	コーディネーターとして町教育委員会次長を選出し、地域の就業体験事業所との橋渡しや各地域資源に関わる事業所との連携を図っていただいた。

④	検証の項目	Student
	検証の方法	地域のイベントへの高校生の参加・協力
	検証結果	ボランティア部、吹奏楽部を中心に町神社祭、納涼会にて準備、演奏ボランティアに参加した。またボランティア部が町主催の自転車ロードレース・町チャリティ大会においても運営補助などのボランティア活動を行った。

⑤	検証の項目	System
	検証の方法	地域コーディネーターを中心とした自走可能な組織の構築
	検証結果	主に 2 年の就業体験学習において、町内から稚内市まで事業所の幅を広げ、多岐に渉る事業所での実施が可能となった。

資料 豊 8

2 当事者の声について

生徒	1年生の時は恥ずかしくて声も小さかったが、年々取り組んでいくうちに自信がつき、堂々と成果発表ができた。 海岸清掃については今後も続けるべきだ。
教諭	大変な苦労もあったが（生徒も）、生徒の成長がはっきりわかる。 担任が年間計画をある程度計画するのに大変だ。できたらプログラム化して誰が担当になってみてもわかる計画をたてたい。 来年度からはクラスプロジェクトがなくなるので、より具体的な計画が必要
地域の方	3年生が1年生をフォローするなどとても素敵だった。 探究課題を自分事として捉え、実施しているので、言葉がより響いた。 少ない人数でよりよい関係ができていいるなどと思った。 大人も発表を聞いて新たな学びになっている。 プレゼン能力もつけられる貴重な機会。

3 今年度（令和5年度）の取組について

月	コンソーシアム会議・関係者打合せ等	主な学習活動
4		・サロベツ・エコ・ネットワークによる地域環境講話 稚内内海岸清掃ボランティア
5	第1回コンソーシアム会議	
6	地域環境講話・全道ボランティア	・2学年インターンシップ
7	就業体験学習	・豊富町と包括連携協定を結んだ北海学園大学との連携（講話）と大学生との交流
8	北海学園大学との連携・大学生との交流	・地域との連携フィールドワーク
9	第2回コンソーシアム会議	
10	地域探究に係るフィールドワーク	1学年による観光協会・トヨタミサイル・町役場・牛乳公社・教育委員会との連携フィールドワーク
11		
12	探究成果発表会・第3回コンソーシアム会議	3学年による地域（あるいは探究課題に関わりのある方）住民への対話的論証モデルを用いたフィールドワーク
1		
2		
3		・次年度に向けた検討と取組（他県交流）の計画

4 自走可能な体制整備に向けた方策について

クラスプロジェクトが終了する次年度にむけて、新たに学校運営協議会に「探究部門」を設置して、コーディネーターの要請を図る。またこの3年間での経験をいかし、構築された地域の事業所の方との連携を深め、自走可能な体制を整備する。さらに校内においては、各学年のプログラム化を図り、教員の負担を軽減する。

資料 豊 8

5 圏域の研究指定校等、他校との連携・交流について

- ・宗谷教育局、宗谷振興局の方にはコンソーシアム構成員として参加いただき、会議にて助言をいただいた。また探究成果発表会にもご参加いただき、生徒の生の声を聞いていただき、講評をうけた。
- ・上富良野高校のコンソーシアム会議に出席して学校の取組について学んだ。

6 学校独自の取組・工夫

- ・町と連携協定を結んでいる北海学園大学の教授から講話をいただき、その後大学生との交流を実施して生徒は進路(上級学校)についても興味関心を持った。
- ・30年以上続いている「稚咲内海岸清掃」に参加し、生徒も地域資源維持の重要性を認識した。

7 その他特記すべき事項

< 3年間のまとめとして >

8 3年間の成果

- ・生徒が成長した。探究課題を3年次には個人探究に切り替え、地域発展について取り組んだが、資源、人だけではなく、文化も地域発展については必要な要素なのだと気づかされた。
- ・自分たちの地元には素晴らしい資源(原野、天然ガス、温泉、風力、酪農)があることをこの探究を実施することで知り、取組ながら授業(社会科北海道学「学校設定科目」高校生議会)で地域発展について意見を述べられる能力を身につけた。
- ・自分の興味関心から探究課題を引き出し、それをどう結論に導いていくのか何をもち理論づけるのか、どういう取組で課題を証明していくのか等の、学び方を身につけた。

9 3年間の課題

- ・探究を取組む段階で、教員にきちんとした組織としての構築や運営を理解させる必要がある。
- ・各学年へのプログラム化が必須。だが、それをこなすだけの探究授業となつてはいけない。
- ・様々な探究課題において、さらに専門性を高めるために各分野における上級学校(大学、専門学校等)との交流が必要。
- ・2学年インターンシップにおいて、探究課題をどう考えるかが重要。(就業体験から感じた地域経済について等)